

【外部評価報告書】

委員氏名 檜山 和男 (中央大学 副学長)

〔第1章〕自己点検・評価活動と中長期計画の推進について

・中長期計画の柱建てや、本学の教育改革のマネジメント（目標や進捗管理、組織間のコミュニケーションや学長方針の履行など）は適切なものであるか。また、時代の要請を踏まえた大学の特色化に繋がるものか。

○学生の成長を約束する（学生を中心とした）質保証というスローガンのもとに、成果につながる3つのポリシーを起点としたPDCAサイクルの仕組みを構築されている点は高く評価できる。

○計画を中期5年、長期10年として捉え、全学的な委員会組織・センター等のみならず、各学部・学科、研究科等が計画を策定して、全学が一体となって推進する取り組みは成果の向上が期待できる。また、学長ヒアリングを全組織で実施していることは特筆に値する取り組みとして高く評価できる。

○中長期計画に謳われている6本の基本方針の項目はバランスも良く、時代の要請に合致している。また、推進するために特別予算を用意して支援している点は評価できる。

○計画の目標達成には、教職連携のもとにPDCAサイクルを継続的かつ円滑に回していくことが重要である。

〔第2章〕教育DX推進基本計画について

・計画1及び計画2の方向性について、時代の要請を踏まえた大学の特色化に繋がるものか（学修成果の活用等、いっそう充実させなければならない方向性や目標に対するご助言をお願いします）。

計画1：入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用

○教育DXの推進は、教育の質の向上と学生・教職員が自身の状況の把握に大きく寄与できるが、東洋大学は全国の大学に先駆けてスマートアプリの導入とその利用により実現している点は高く評価できる。

○アプリの機能も豊富であり、特に学生の自己省察を促すMy Journey機能はユニークである。AIを導入することで、機能の向上と利用率向上が見込める。また、アプリや業務DXを通じて得られた分析データを様々な利活用（部署間の連携、学習データの把握と指導等）されていることは高く評価できる。

計画2：オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化

○東洋大学スタンダードとして、幅広い学問分野から構成される全学基盤教育、全学共通教育の科目群の授業をオンラインにより履修可能にする点は高く評価できる。また、基礎科目のオンデマンド化の推進は理解度の向上の観点からも重要である。

○提供する科目群を、カテゴリーを設けて提供（基準を満たせばオープンバッジ授与）することで学生の複眼的思考の醸成（サブメジャー）、勉学意欲向上に繋がると考える。

○東洋大学の社会的貢献として2部を設けている点があげられるが、1部との合同メディア授業の導入は教育効果の面で有効な手段である。

○AIの利活用については、学生の成長につながる形での教育方法の構築が重要である。